

# 広濟寺寺報

発行 浄土真宗本願寺派 福田山 廣濟寺

〒 933-0344 富山県高岡市笹川98 TEL(FAX) 0766-31-0096

E-Mail info@kosaiji.net

ホームページ

http://kosaiji.net/

## 法座のご案内

### 報恩講

十一月五日(月)・六日(火)

午前九時半・午後一時半より

五日(月)午後七時より

仏教婦人会報恩講



## 今号の法語



み手の中



ままならぬまま

ままならぬ

## 今号の内容

- ・小学生たちが来てくれました!
- ・住職コラム
- ・夏休み子ども大会が開かれました
- ・千夏のきときと日記



近年、自立した生活を送れる期間「健康寿命」が話題になっています。長生きはしたいけど、寝たきりになってしまうのはイヤ……。元気に長生きしたいというのは誰もが望むことですよね。

しかし私たちの願いに反して現実……。思わぬ「病気」が襲ってきたり、確実に忍び寄ってくる「老い」との闘い……。結果、死ぬまで健康な人というのはほとんどおられないというのが現実でしょう。

人生は「ままならぬ」ことばかり。「病気」の縁があれば、それと共に生きていかなければならないのが私たちの人生です。

そんな私を「大丈夫だよ」と温かく包みこんでくださるのが阿弥陀さま。「ままならぬま」の私といつも一緒の仏さまです。

御堂で話を聞く子供たち



# 小学生たちが来てくれました！

九月十九日(水)、広濟寺にたくさん的小学生たちが遊びに来てくれました。近くの千鳥どりがおか鳥丘小学校では、ふるさと教育の一環として、「千鳥ウォーク」と題し、子供たちが郷土を歩いています。今年も広濟寺にもやって来てくれました。暑い中、縦割り班で仲良く

長い道を歩いてきてくれた子供たち。御堂に入るや「涼しく！」の声。初めてお寺に来たという子もたくさんおられました。

子供たちには、地域をはじめとした多くの方々に支えられ守られてきたのがお寺であることをお話しました。またお寺の歴史を紹介する中でも、疎開児童の話には子供たちも真剣に聞いてくれていたように思います。

後日お礼の手紙が届きました。「お寺はみんなの家ということを知りました」「朝六時の鐘の音を聞くのに早起きします」など、うれしい内容がいっぱいでした。少しでもお寺を近くに感じてもらえればと思います。

## 住職コラム



本年六月大阪府北部地震、続いて七月西日本豪雨、そして台風二十一号災害、また続いて北海道胆振東部地震・液化現象災害……。この狭い日本列島でなんと災害の多いことか。

自然とはいえ今は「中秋」より「晩秋」に向かい赤色・黄色等々の紅葉が山から里に美しく移り染めていきます。

一方、被災地の寺院、門信徒の方々は今から更に寒い

冬を、そして、年の暮れを迎えていかなければいけない。

十月二十日号の「本願寺新報」に掲載されているこの現状について、見舞いにも行けずもどかしく感じております。

仏さまという親さまに育て育てられている私共は、淋しい、辛い、苦しみ、何とかならないか、等々。

たくさんの方々に支援や励ましをしていきたいと思ひます。合掌



# 夏休み子ども大会が開かれました

八月九日(木)午後四時より、福岡町土屋の珉照寺みんしょうさんにて、五位組夏休み子ども大会が開かれました。第二十回を迎えた今回も、多くの子供たちが参加してくれました。

まずはお寺でのマナーを聞いてから、皆でお経のお勤め。それから、皆で遊びの時間です。

ゲーム(写真参照)やけん玉シヨウなど、実際にけん玉を体験したりもして、元気いっぱいの時間を過ごしました。

夕食にはお寺の婦人会の方々が作ってくれたカレーライスをいただきました。いっぱい動いた後のご飯の美味しいこと！皆おかわりしていました。夜は近年恒例となってきた肝試しをしました。子供たちはドキドキ、脅かし役はワクワク



元気に走り回る子供たち

今後も継続予定です。次回もお楽しみに！

# 千夏のきときと日記

秋の気配が色濃くなつてまいりました。秋と言えば、食欲の秋(もちろん)、読書の秋(苦手)、そしてスポーツの秋です。最近ウォーキングをしましたが、二回で中断しているのはここだけの話です。

先日バレーボール女子の世間大会がありテレビ中継に釘付けでした。実は学生・社会人時代にはバレーボールをしていたので、大好きなスポーツだけに大熱狂！バレーボールの魅力はボールが繋がり、ラリーが続くところだと思えます。どちらのチームもボールをなかなか落とさない試合は、見ていると楽しいし感動します。

バレーボールは人と人を繋ぎ、心も繋がります。一本目の

ボールをさわる人は、二本目の人に繋がるパスをします(レシーブ)。二本目をさわる人は、三本目の人に繋がるパスをします(トス)。三本目の人は繋いでくれた仲間のために相手コートに攻撃をします(アタック)。他の人はフォローにまわります。

私たちのいのちも父・母から、そして祖父・祖母から、そして曾祖父・曾祖母から、ずっと繋がられています。数えきれないのいのちから支えられています。私たちのいのちもたくさんの人から応援されているのですね！



# お知らせ

二〇一八年

おみがき

十月二十七日(土)

午前九時より

報恩講

十一月五日(月)・六日(火)

午前九時半より

午後一時半より

御講師

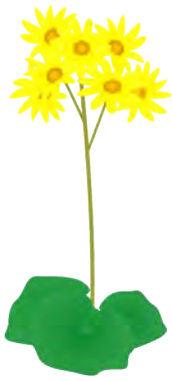
伏木組 龍善寺

山名 一徳師

御伝鈔拜読

十一月五日(月)

午後四時より



子ども報恩講

十一月五日(月)

午後五時半より

仏教婦人会報恩講

十一月五日(月)

午後七時より

御講師

新湊組 覚円寺 若院

青木 哲隆 師

広濟寺仏教婦人会

毎月第四土曜日

午後七時半より

※月参りについて

十一月四日・五日・六日の

三日間はお休みさせていただきます。

ただきます。



## 編集後記

自然災害が続いています。九月の台風二十一号においては、お寺の大きなイチョウの木も弓のように曲がり、折れるかと思うほどの風でした。幸いお寺においては、車庫の瓦が数枚落ちただけで済みました。年配の方々のお話をうかがっていても、近年稀にみる非常に強い台風だったようです。「非常に強い」勢力を保ったままの上陸は二十五年ぶりだったそうですから、強いわけですよ。本願寺においても被害がでましたが、他にも多くのお寺で被害がでています。古い建物はどうしても弱い部分があるのでしよう。

考えてみれば、長い歴史の中で、今回のような何十年ぶりという台風や地震といった自然災害は数多くあったことと

思います。けれども、現在もこうして多くの歴史あるお寺が護持され、現在まで継承されてきました。その歴史の中では、大きな被害を受けたことも少なくはなかったはず。そうした際には、当時の門徒の方々や地域の方々が一生命に修理してきてくださったのだらうと、お寺の長い歴史に思いを馳せました。きっとお寺だけでなく、自分たち自身も被災しておられたのに……。

そんなことを考えていると、今護持されてきているお寺というのは、門徒の方々や地域の方々の、血と汗と涙の結晶のように感じられました。もつたいないことであり、先人たちの思いがズシンと重く感じます。お寺の御堂は多くの方々の思いが込められた空間です。どうかその空間で、一緒に手を合わせてみませんか？